

## 昭和49年度安全目標から学ぶ

新城営林署 青山 忠好

私達は、日常の作業に当って安全を願い安全作業を行うための一つの指標として、安全目標を毎月定めて事故のない明るい職場作りに努めています。

そこで昨年度の安全目標をもう一度ふり返ってどんな安全目標をたてていたか、どんなことに気を配って作業していたかを反省、検討し本年度の安全目標の参考にし、作業に当ってどんな安全活動をすればよいかを考えてみた。昨年度の安全目標のまとめは別図のとおりですが、これは団子島製品事業所、裏谷製品事業所、清崎貯木場の製品関係3事業場の昭和49年度12ヶ月分のものです。

まず、これからもよくわかるとおり、指摘している点及び反省すべき点は、

- (1) 最も多く、安全目標として掲げていることは、健康に関することである。一年を通して病気やへばラズに健康を保持することは大変なことであるが、当然のことながらそれをやらなければならない。
- (2) とくに夏場の体力維持に気を配っている。我々は体が資本であるので、作業前の条件として健全な体力を築いておかなければならない。
- (3) 各種の点検や確認にも重点がおかれている。整理整頓など作業前から作業後までの反省をしなければならないことも指摘しており、これらは作業の基本であり安全確保の大きな柱であることを物語っている。
- (4) よいチームワークを保持すること。ユーモアの明るい会話で意思疎通を図り、ゆとりある作業をする。作業前には、一笑運動などにより気分をほぐすのがよい。
- (5) 安全のルールを守り、たえずチェックすること。安全のルールとは、**決める** → **実行** → **確認** → **反省** → **決める** の繰返しで、悪かったことはすぐに改善し、常に現状打破に努め新しい事に向けることを忘れてはならない。現場最先端の安全活動は、この安全のルールをしっかりと守ることを再確認すべきである。
- (6) 職業病は、絶対に出すな  
時間規制の遵守は勿論のこと、体操その他の健康法により職業病の撲滅を図る。
- (7) すべてに大切なことは、連絡はハッキリ、シッカリ、明確に伝えること。
- (8) めざすは無災害職場

大略以上であるが、これらは非常に大事なことばかりであり、これをよく踏まえて今後の安全活動の参考に更にしたいたいものである。

つぎに、安全目標の掲げ方としては実践できることに的をしぼって唱えることである。

- (1) 一つの標語には、一つの意味をこめて掲げる方がよい。二つ以上の意味を含んでも、なかなか目標

に対しての達成ができない。一ヶ月間の目標ということから一つにしばって徹底して守っていくという姿勢の方がよい。目標だけの目標にならないために。

- (2) 抽象的な表現はせず、具体的な事項を掲げること。例えば「点検整備の完全励行」はすっきりしている目標のようであるが、具体性に乏しい。点検整備はすべてに必要なことであるが、今月は何の点検整備を行うかのしばってそれについて重点的に実施した方がよい。“チェーンソーの点検整備の完全励行”というように、勿論、他の事項についての点検整備をおろそかにするというわけではない。
- 又、安全目標は月始めに定めればそれでもうよいという気になりがちな点があるので週に一度か旬間に一度ぐらいは再確認するように安全推進員が安全当番において読み上げや目標に対しての達成度など、安全日誌などに記入するか、目標に対しての300事故はなかったか事故通報を利用して反省していくとよい。

以上が昨年度の安全目標から学んだことであるが、では本年度何を実行したか。

主として実施したことを述べてみると、

- (1) 意思疎通及びマンネリ化した安全活動に対しての刺激を与えるため、定期的な『連絡』の発行である。内容は安全は作業と一体のものであることから、作業についてと安全一般についてのもので、主として年度当初の安全懇談会の懇談内容の再確認や自主的安全活動の方法等である。
- (2) 安全活動は全員が実行すべきであることから、安全はすべての人の職務である。ですから、自主的安全活動の実施が要求される。まず、安全推進員には安全推進員ノートを備付けて、安全についての必要事項や実施事項を記入してグループの安全活動に寄与させ、そして事業所全体の安全活動に広げていくことである。その実施例としては「青竹健康法」と称した運動である。これは、半分に割った青竹の上で足踏みをすることで作業衣の着替えのときに10回ぐらい行ない、体力の維持と調整を図ることをねらったものである。足の土踏まずは第二の心臓であると言われていることから、ここを刺激すると中枢神経から大脳をも刺激して、体の動きをよくするという。実施した結果は非常に好評である。
- (3) やってよかったことのマネはどんどんやること。安全衛生委員会において、鉄棒のぶらさがりは、腰痛対策に非常によいとのことから現場ではすぐに金テコを利用して鉄棒を作り実施した。これも、利用度が高く好評である。

安全旗の掲揚は各現場とも実施しているが、上げっ放しのところが多い。安全旗から安全を認識するには毎日見るだけでなく安全旗にふれることがよいことから、安全当番による掲揚を日々行っている。

さて、最後に昨年度の安全目標は何を言っているのかをもう一度まとめてみると、

1. まず健康であること。
2. 整理整頓、点検確認は作業の不可欠条件である。
3. ユーモアな明るい会話で意思疎通を図り、お互いゆとりある作業を行う。

4. 安全作業は、安全のルールを守りチェックして改善する。
5. 欠かせないことは、連絡は確実に。
6. よって無災害が達成できる。

となります。

一年間を一区切としても、安全作業を実行するには大変な努力が必要です。安全活動は更に地道な努力が要求されます。我々は基準などを守っておればよいという考えだけではそれこそ災害をひきおこすことになりかねません。みんなが安全について関心を持ち、安全作業をするための工夫や考えを出しあって自主的な安全活動を強力に実践することによって、災害が減少し更に無くすることができるかと確信しております。これを機会に更に安全で明かるいユーモアのある職場を築くことの努力を惜しみません。

# S49 安全目標から学ぶ

健康で明るい会話と基準を守る  
これが無災害への道

1. S. 50. 4. 8
2. 田子島事業所
3. 田子島 安全管理課
4. S49安全目標
5. 青山

(安全目標は実践できることを目的をしほって唱う)

整理整頓・点検確認は作業の不可欠条件

点検確認は安全確保の大きな柱

## 怠らな点検確認

- 作業の基となる点検確認が
- 点検整備の安全に行
- 作業前の着身点検の安全点検再確認
- 作業前後の点検を怠らな
- 点検整備の確認
- 機械は人が使う前の毎日の点検で安全に行
- 機械は使っている日々の点検を怠らな
- 機械設備の日々の点検を怠らな

冬は条件が悪い点検と不確認は繰り返しやろう

- 雪は足元を阻害する足元の不確認を繰り返す
- 凍結したときは枝や周囲の状態をよく確認しよう
- 積雪時は積雪と凍結による滑りや凍りので足元に注意しよう
- 積雪時の水分や足場の確保に努めよう
- うらとけ足元に注意しよう
- 凍結したときは枝や周囲の状態をよく確認しよう
- 凍結した枝の取扱いは十分な注意しよう
- 凍結時作業動作の再確認
- 凍結時の足場の確保とレイアウトの確認

- 馬が絡むと油断する乗数を減らす再確認
- 馬信満信にお事故をなくそう
- 乗客は一十進出からお互注意しあふ安全作業を行おう
- 安全作業馬場の時点を再確認

## 作業場の状況把握が作業のため

- 周囲の状況をよく見て足場を確保しよう
- 降雪時の足場周囲の安全確認をしっかりと行おう
- 山は易か悪くぬけ例山打ちは足元に注意しよう
- 足場に注意しよう
- 急傾斜地足元落石注意
- 笹は刃物・用裂はさけよう
- 足場の確認・枯草による足傷に注意
- 村行き現場での作業は必ず注意しよう
- 梅雨期足元注意
- 転倒防止よう注意

- 環境整備は作業能率の向上に
- 作業場の整理整頓
- 環境を整備しすむりな気持で作業しよう

- 正しい足の踏み方
- 足の後始末をしよう
- 消火器の点検整備と持ち運びは充分注意しよう

- 臨時作業は安全対策を十分に
- 極作業を確実に行おう

ユーモアな意思の疎通がゆとりある安全作業に

— 明るい会話で意思の疎通 —

良いチームワークは安全作業を導く

無理な作業は一人ですべてのチームワークで実行に移そう

チームワークで職場の安全に協力をおこそう

チームワークで感じのよいお話し合い

安全作業は自分の注意とお互の協力が

互に注意し安全作業に備えよう

協力と融和をもって安全作業に徹しよう

お互の誓う安全作業に努めよう

話合うとは危険をなくす。TBMはシカリやろう

作業前の話合いでいつも明るく無言で

馬鹿げた作業でも事前に話合ってやろう

連絡はハッキリシカリ明るく

安全体制の確立と安全標語の確認

— 作業にはゆとりとよゆうが必要 —

ゆとりある作業をしよう

仕事は追う気にならずやれ追われる心には不安がある

些細なことでも周囲が安心が重たいお話をしよう

作業はゆたかにむけて確実

焦らず確実な動作を繰返そう

急がず焦らず無理をせず月曜をいかにしようおこそう

仕事の最盛期も焦らずあわてず確実な動作で

焦る心が事故のもと。今一度確実をして作業しよう

— 安全作業は安全のルールでチェック —

作業基準を知ってやれる安全作業

基準を作るには必ず知ること

ケガして泣くより笑って守った安全基準

みんなで行う安全基準

正しい作業動作は正しい作業方法を知らねばならない

正しい作業動作が当たり前守る3年後最長5月と

作業動作の基準をよく理解し習熟しよう

作業基準は度々よんで作業方法を再確認しよう

読書の秋作業基準を今一度読み直しよう

度々繰返し読む作業基準

合同はしかり信しよう

作業合同の徹底をしよう

合同確認安全の平場

決まったことは守って安全な取組をしよう

作業基準守り順は必ず守ろう

吊り荷の厳守足場の確認

上下作業の禁止

基準動作が身を守り取組を守ろう

基準動作を守って災害のない取組にしよう

基準動作の励行と自己の健康管理

作業の反省は次の安全をしよう

作業行動力の反省をしよう

先月の事故を反省し二度と繰返さないようしよう

今月の事故の反省月間として話合いをし安全に努めよう

無災害を地道な活動でとらえても続けよう

身と心しめこむにはゆとりをもちて師走を無災害で切り抜けよう

無災害今年も伸ばそう安全オー

今日も無災害守りよう安全オーと心にきざそう

初春を迎えた月は年明けおこすな災害。油断せず続けよう。これほど守りつて無災害

今年こそ安全作業に備えて災害は出さない

